

2011年度 第2回水工学委員会 議事録

日時： 2012年3月6日(火) 18:00~20:00

場所： 愛媛大学城北キャンパス 共通教育講義棟北別館 北41号室

出席者： 小松利光(顧問), 砂田憲吾(顧問), 玉井信行(顧問), 寶馨(委員長), 道奥康治(副委員長), 篠田成郎(幹事長), 大石哲(編集幹事長), 朝位孝二, 浅沼順, 天野邦彦, 泉典洋, 今村正裕, 大槻英樹, 沖大幹, 風間聡, 門田章宏, 川池健司, 川越清樹, 河原能久, 河村明, 神田学, 榊山勉, 清水康行, 清水義彦, 鈴木正人, 角哲也, 関根正人, 立川康人, 田中規夫, 田中仁(代理:梅田信), 田中昌宏, 知花武佳, 藤堂正樹, 戸田圭一, 戸田祐嗣, 富永晃宏, 中北英一, 中嶋規行, 中津川誠, 二瓶泰雄, 原田守博, 藤田一郎, 堀田哲夫, 矢島啓, 矢野真一郎, 渡邊康玄 [敬称略]

議題：

寶馨委員長からの挨拶の後, 引き続き以下の事項についての審議が行われた。

《報告事項》

1. 本年度の委員会活動報告

a) 行事報告 (篠田成郎 幹事長)

- ・第16回水シンポジウム2011inきょうと：2011年8月11日(木)~12日(金)に開催され, 550名が参加した。
- ・第47回水工学に関する夏期研修会：2011年8月29日(月)~30日(火)に広島大学で開催され, Aコース69名, Bコース69名, 計138名が参加した。
- ・第56回水工学講演会：2012年3月6日(火)~8日(木)に愛媛大学で開催された。投稿論文数403編, 採択論文数301編, 採択率74.7%であった。

b) 災害調査報告 (篠田成郎 幹事長)

- ・センドン台風洪水(フィリピン)：2012年2月に実施され, 大石哲先生(神戸大)が参加した。
- ・新潟・福島豪雨災害：2011年8月に実施され, 玉井信行先生を団長に, 新潟へ11名, 福島へ4名が派遣された。
- ・台風12号豪雨災害(紀伊半島)：土木学会関西支部, 土木学会主催のシンポジウムなどで適宜報告会が開催された。水工学委員会からは派遣なし。
- ・タイ洪水：2011年12月に実施され, 土木学会から寶馨先生を団長に18名(うち民間10名, 大学8名), 国土交通省から安田吾郎氏(国際建設管理監)を団長に8名が派遣された。

2. 各部会, 小委員会の報告

a) 水文部会 (神田学 部会長)

- ・年次講演会の際に第1回部会を開催した。また, 水工学講演会中(2012年3月7日(水))に第2回部会を開催する。
- ・第12回地下環境水文学に関する研究集会in長崎を, 中川啓先生(長崎大学)が世話人で, 2011年11月12日(土)~13日(日)に長崎大学にて開催した。

b) 基礎水理部会 (富永晃宏 部会長)

- ・第5回基礎水理シンポジウムを2011年12月5日(月)に土木学会講堂にて開催し, 67名が参加した。「流砂」と「氾濫流解析」をテーマとして行われ, 島田友典氏(土木研究所寒地土木研究所)と井上和也先生(京都大学名誉教授)の特別講演があった。
- ・見学会を2011年11月20日(日)~21日(月)に実施した。木曾三川, 土木研究所

自然共生研究センターなどを見学した。

- ・長林久夫先生（日本大学）と細田尚先生（京都大学）が部会委員を退任され、前野詩朗先生（岡山大学）、田中規夫先生（埼玉大学）、杉原裕司先生（九州大学）、門田章宏先生（愛媛大学）、山下路生先生（京都大学）が新任委員として加わった。現在の部会員数は27名である。
- ・部会の活動として、開水路流の流れ構造と数値解析法に関する包括的研究と水理学・水工学に関する素材集の作成に取り組んでいる。
- ・河床変動計算用フリーソフト（iREC2.0）のデモを第56回水工学講演会中に実施する。

c) 環境水理部会（二瓶泰雄 部会長）

- ・第2回流域圏シンポジウムを、赤松良久先生（山口大学）が世話人で、2011年12月15日（木）に京都大学東京オフィス会議室にて開催し、104名が参加した。当日参加者に対して行ったアンケート結果についても報告された。次年度以降、第3、4回を開催予定である。
- ・土木学会重点研究課題へ、「流域圏における放射性物質・化学物質の動態が生物環境に及ぼす影響」（研究代表者：横山勝英先生（首都大学東京））を申請した。共同研究者は12名（うち、部会員は10名）である。
- ・平成24年度研究集会を、2012年5月21日（月）～23日（水）に熊本県水俣市で開催する。世話人は、矢野真一郎先生（九州大学）である。現場見学会を荒瀬ダム、川辺川ダム建設予定地、水俣病関連施設について行う。
- ・2011年9月7日付けで部会内規を整備した。
- ・横山勝英先生（首都大学東京）、大石哲也氏（土木研究所）、都築隆禎氏（リバーフロント整備センター）、湯浅岳史氏（パシフィックコンサルタンツ）、工藤健太郎氏（いであ）の5名が新規部会員として退任した部会員に入れ替わり加わった。現在の部会員数は30名である。
- ・教科書「環境水理学」の作成を計画しておりWGにより目次案を作成中である。また、流域圏シンポジウム以外のシンポジウムの開催を企画している。

d) 河川部会（泉典洋 部会長）

- ・2012年度河川技術に関するシンポジウムについて、188編の要旨投稿（過去最高数）があり、129編が1次審査を通過した。論文集をカラー化し、1ページあたり10,000円を著者に負担させることになった。2012年6月21日（木）～22日（金）に開催される。
- ・土木学会重点研究課題へ、「堤防の安全性に関わる工学的技術体系確立のための基礎的研究」（研究代表者：泉典洋先生（北海道大学））を申請した。地盤工学委員会とジョイントで構成している。

e) 地球環境水理学小委員会（中北英一 委員長）

- ・アゲールシンポジウムを2012年3月6日（火）に開催し、127名が参加した。
- ・温暖化影響評価を中心にして、新規メンバーを募集中である。

f) 東南アジア河川流域研究小委員会（河村明 委員長）

- ・小委員会活動として、委員長が参加した国際学会、災害調査等の説明があった。
- ・2012年3月5日（月）に東京大学にて開催の土木学会主催シンポジウム「東日本大震災 あれから1年そしてこれから ～巨大災害と社会の安全～」において、水工学委員会担当のセッション「激甚化する降雨災害にどう向き合うか」を担当した。

g) ISO/TC113 小委員会・流量観測技術高度化研究小委員会の合同委員会（藤田一郎 委員長（流量観測小委員会））

- ・2012年3月1日（木）に河川情報センターにて合同委員会が開催された。固定式流速・流量計に関する技術論文集の提案、ISO/TC113(Hydrometry：開水路流量計測)への対応状況、4～5月に融雪出水の合同観測を企画していること、などについて説明があった。

- ・水理公式集の改訂が今後 2～3 年で予定されているため、その中に情報を含める対応を求める意見があった。

h) JHHE 編集小委員会 (戸田圭一 委員長)

- ・今年度の出版状況の報告があった。土木学会の国際ジャーナルが発刊されるまで従来通りの編集を行う。最終号に向けた論文募集の打ち切り時期と、最終号の企画を委員会で議論する予定である。

2. 第 17 回水シンポジウム (岐阜) について (篠田成郎 幹事長)

- ・2012 年 7 月 26 日 (木) ～27 日 (金) にじゅうろくプラザ (岐阜市) で開催される。初日がシンポジウム、2 日目が見学会 (長良川など)。メインテーマは、「飛山濃水の恵みと智恵～森と海をつなぐ清流の国ぎふからのメッセージ～」。寶委員長が実行委員長、篠田幹事長が実行委員会企画部長を担う。第一分科会は水文部会 (神田部会長) が担当し、「水との闘いの歴史とこれからの対応・備え」をテーマとして行う。水工学委員会中部地区委員の鈴木正人先生 (岐阜高専) が司会を担当する。
- ・本シンポより分科会を従来の 3 つから 2 つに減らし、予算規模の縮小を図っている。
- ・次回について、中国・四国地区での開催を検討して欲しい旨の意見があった。

3. その他

a) 土木学会重点研究課題応募の報告 (篠田成郎 幹事長)

- ・環境水理部会 (前出)、河川部会 (前出)、ならびに清水康行先生 (北海道大学) 「2011 年タイ北部水害時の洪水氾濫プロセスとその対策」の 3 件の申請があった。全て、委員長推薦としている。

b) 委員会活動度評価要領の見直し (篠田成郎 幹事長)

- ・土木学会研究企画委員会より、自己評価を年 2 回から 1 回へ減らすことが提案されている。
- ・新たな評価方法では、行事参加者数と出版物購読者数の合計をもって情報発信数とする。2500 以上が A ランク、500～2500 が B ランクとなるが、過去 4 年間の実績では、H19 年:B, H20 年:A, H21 年:B, H22 年:A となる。カウントから漏れている行事などがあるので、今後は確実にカウントする必要がある。
- ・提案には基本的に賛成するが、新しい評価法の有効性・妥当性を明確にすることを求める回答を行うことで了承された。

《協議事項》

1. 第 48 回水工学に関する夏期研修会 (2012 年, 北海道大学) (中津川誠 幹事)

- ・2012 年 8 月 27 日 (月) ～28 日 (火) に北海道大学工学部にて開催される。A コース (河川・水文) のテーマは「大規模水害の現在技術」。5 月に会告を出す予定である。
- ・学生の参加費を 10,000 円に下げようとして、海岸工学委員会側と協議中である。そのためには、一般の参加費の値上げや謝金に学会規程を提供することが必要である。

2. 第 57 回水工学講演会の開催について (2012 年, 名城大学) (原田守博 委員)

- ・2013 年 3 月 5 日 (火) ～7 日 (木) に名城大学天白キャンパスにて開催される。準備状況の報告がされた。

3. 水工学委員会構成について (篠田成郎 幹事長)

- ・資料に基づき、現在の構成が説明された。

4. その他

a) 調査研究拡充支援金算定方法の見直し（篠田成郎 幹事長）

- ・土木学会からの要請について説明が行われた。試算の結果、新しい算定方法では委員会側の負担が大きすぎる（赤字になる可能性が高い）ので、反対することになった。

b) 土木学会論文集における水工学論文集の取り扱い（大石哲 編集幹事長）

- ・第1回委員会において水文部会から提案された案件について回答された。
- ・水工学論文集をレター誌に変える意見に対しては、土木学会論文集としての要件を満たしている以上、その必要はないという認識が示された。
- ・査読者に査読論文数に比例した謝金を支払う提案については、学会として査読に対する謝金制度が無いので認められないという認識が示された。ただし、その主旨としては、投稿料を取ることで推敲などが不十分な論文の投稿や、投稿しているが査読は拒絶するという態度を取る人を防ぐ意味合いがあることから、別の方法も含めて検討する必要があるという意見があった。
- ・土木学会論文集の通常号に掲載の論文について、希望者には水工学講演会で発表させるという提案に対しては、論文集Bに海岸工学と海洋開発が含まれるため各委員会との調整が必要であること、ならびに、現状では水工学講演会は1人1件の発表しか認めていないことから、更なる検討が必要であるという認識が示された。
- ・取り扱いは、他の部門と同じにする必要もあるので、どの程度の自由度が各委員会に認められているのかを確認してからの検討となる。

c) 水理公式集の改訂について（篠田成郎 幹事長）

- ・前号は平成11年、プログラム集は平成14年発刊であった。
- ・名称についても検討範囲に入る。
- ・今後、2～3年で実施する必要がある。
- ・次年度中（6月の次回委員会からを予定）に小委員会を立ち上げる予定である。各部会から委員を出す形となる見込みである。
- ・WEB上での利用なども検討する。

d) 水工学に関する夏期研修会の講義集について（篠田成郎 幹事長）

- ・新しい知見を加えるなどしてシリーズ化して出版してはどうかという意見があった。海岸工学委員会との協議も必要であるとの認識が示された。

e) 次年度の会議開催予定（篠田成郎 幹事長）

- ・5/13 第1回幹事会、6/19 第1回委員会、10/3 第1回水工学論文集編集小委員会幹事会、10/4 第2回幹事会・第1回水工学論文集編集小委員会、11/7 第3回幹事会・第2回編集小委員会、12/13 第2回編集小委員会幹事会、3/5 第2回委員会。

f) 洪水のレベル1, 2について（玉井信行 顧問）

- ・玉井顧問より学術的な意味付けを行うための議論を水工学委員会で行ってほしいとの要請があった。幹事会を中心に協議していくことになった。

以上